2007 年度 修了

デューイにおける「経験」の教育
― 『民主主義と教育』を読み解く ―

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
人間形成・臨床教育クラスター
明原　由美子

本論文では、ジョン・デューイの代表作である『民主主義と教育』に述べられた彼の教育哲学を読み解いて、経験主義の教育とは何か、民主的社会に必要な教育とは何かを考察した。デューイの哲学は「経験的自然主義」や「自然的経験主義」、あるいは「自然主義的ヒューマニズム」と呼ばれる。それはあらゆる二元論な見方を退け、徹底した自然主義および経験主義の一元論から構成されている。デューイによれば、自然と人間の生命活動は、対立する関係ではなく、連続する相互関係としてとらえられる。

人間は未熟な状態で生まれ、社会の中で生きていくことを余儀なくされている。社会も生物学的生命と同じように歴史の中でその生命を存続させていく。人間が社会で生きていくことを可能にするために、教育が必要なのである。しかし、教育は、文化を伝達するだけのものではない。もう一つの大切な点がある。それは、子どもたちに社会をつくり直していく能力を身につけさせることである。

デューイの主張の要点は、知識の一方的伝達を中心とした伝統的な学校教育への批判にあった。伝統的な教育の中では、子どもたちは形式にしばられて受動的になり、個性や感性、そして創造性は抑圧され、行動は機械的なものになってしまうため、めまぐるしく変動する社会変化に対応していくことができない。そこでデューイが主張するのは「経験」による教育である。問題的な困難な状況を打開するには、経験のなかで思考を働かせ、探究活動をおこなわなくてはならない。それと同じで学校教育においても、共同的な活動のなかで思考を喚起するような経験にもとづいて、学習がおこなわれるようにしなくてはならない。デューイは、そのための教授法や学校のあり方を明らかにした。

このことは、民主的な社会のあり方とも結びついている。個人と社会は決して切り離されるのではない。共同的な活動のなかで自由に探求的な経験をつむことが、人びとの民主的なあり方を生むのである。民主的な社会の特徴とは、その集団の成員のすべてが多くの関心や価値を交換し共有することであり、また集団の外部と自由に相互交流をすることである。学校は、民主的な社会のモデルとして、そのような活動を推進するものでなくてはならない。